

徳島県 阿南市



阿南市桑野町にあるJAアグリあなんスタジアム。
両翼100m、センター122m、黒土、天然芝を備えたプロ野球も開催できる本格的な野球場。

野球で繋がる人と心! 野球を活用したまちおこしに取り組む 『野球のまち阿南』

阿南市は2007(平成19)年の野球スタジアム竣工を契機に野球によるまちおこしに取り組んでいます。全国から集う選手たちとそれを支える市民との交流を通じて、「野球でつながるまち」として、夢と笑顔を届けています!



野球のまち推進課
課長 大川 康宏さん



道の駅「公方の郷なかがわ」にある89番野球寺のモニュメント。
野球のまちを象徴するスポットです。

1 プレイボール(はじめに)

『野球のまち』阿南市は、紀伊水道と太平洋に面した徳島県東南部、四国最東端に位置し、美しい海と緑豊かな山々、四季折々の山海の幸に恵まれた自然豊かなまちです。

一方で、臨海部には製紙会社や火力発電所、LEDや半導体レーザーの製造会社も立地し、新産業都市として大きく発展を遂げてまいりました。

また、国の史跡に指定された日本最古の辰砂採掘遺跡や四国最古の遍路道のほか、人形浄瑠璃や竹人形など時代を超えて今に伝えられる多くの歴史や伝統芸能も息づいています。



徳島県阿南市

●面積 / 279.25km²(R7年7月31日現在)

●人口 / 67,221人
(R7年7月31日現在)

●HPアドレス
<https://www.city.anan.tokushima.jp>

DATA

プロ野球選手では、現役でオリックス・バファローズの杉本裕太郎選手や中日ドラゴンズの森山暁生選手、横浜DeNAベイスターズの吉岡暖選手が活躍しているほか、元読売ジャイアンツの水野雄仁さんや條辺剛さん、元広島東洋カープの福良徹さんなど数多くのプロ野球選手を輩出しています。

2 一球入魂

(野球のまち阿南の誕生)

明治の中頃から中学校に野球部が創部されるなど阿南市は古くから野球が盛んなまちで、現在でも少年から古希まで60を越えるチームが活動しています。そんなまちに2007(平成19)年、市民待望の両翼100m、センター122mのプロ野球の公式戦も開催できる天然芝のJAアグリあなんスタ

ジウムが完成します。この施設をフル活用して野球を活かしたまちをおこしに取り組もうと官民連携の組織「野球のまち阿南推進協議会」が発足し、野球のまちを宣言します。そして2010(平成22)年、市役所産業部に「野球のまち推進課」が創設されると、野球によるまちづくりは全国から注目を浴びるようになっていきます。

BASEBALL CITY ANAN 野球のまち阿南

野球のまちロゴマーク

3 好球必打 (野球を観光資源に！)

野球は国民的スポーツであり、比較的高齢者でもできる生涯スポーツです。また、1チーム最低でも9人の選手が必要であり、大会となれば数多くのチームが集まるのが魅力です。集客できる事業は大きな経済効果を生み出し、地域の活性化に繋がります。野球のまち阿南は、そんな野球を観光資源と捉え、さまざまな事業を展開していきます。少年野球の全国大会や西日本生涯還暦野球大会の開催を

はじめ、高校、大学、社会人チームの合宿誘致、野球の試合と観光をセットにした野球観光ツアーの実施、プロ野球選手などによる野球教室や甲子園常連校を招いて地元チームと対戦する高校野球交流試合、モンゴルや中国など海外少年野球チームとの交流試合、また、昨年から2年連続で開催したアジアオープンティーパーン国際大会では、3日間で延べ3千人が阿南市を訪れるなど、年間を通じた事業の経済効果は一億円以上上っています。



野球と観光がセットになった野球観光ツアー。歓迎交流会で地元連による阿波踊りが披露されると会場は熱気で溢れます！

4 全員野球

(市民が支える野球のまち)

野球のまち阿南を支える私設応援団にABO60の皆さんがいます。ABO60は、「阿南ベースボールおばちゃん60歳以上」の略で、メンバーは元保育園職員や教員、主婦らさまざま、最高齢の方は87歳です。大会の開会式などで熱烈なダンスを披露して選手を応援してくれます。

また毎年、春の甲子園に出場する北信越の高校が阿南で合宿を行うときも、地元婦人会や協議会の皆さんが昼食時の配膳やお茶のお接待を毎日行ってくれています。

これら市民の自発的な協力は、官民一体となつてまちおこしに取り組み野球のまちの象徴となっています。



アジアオープンティーパーン国際大会の様子。アジアの7つの国と地域から小学生400人が参加して熱戦が繰り広げられました。

5 ウィニングショット (おわりに)

第7代野球のまち推進課課長として、歴代先輩方の築き上げてきた事業や人との繋がりを大切に、これからも野球を軸に、人が集い、育ち、元気になるまちの実現を目指します。

野球があるまち

野球でつながるまち

阿南市にぜひお越しください



阿南市
マスコットキャラクター
「あななん」



60歳以上の女性らでつくるチアリーディングチーム「ABO60」。野球のまちを訪れる選手の皆さんを元気いっぱいのダンスで歓迎します！

その昔、讃岐の中で最もにぎわった港町と
 言える多度津。こんぴら舟のみならず、
 北前船の寄港地として、人も物も集まってきました。
 そんなにぎわいを伝える多度津町の本通り
 や桃陵公園を巡ります。



香川の

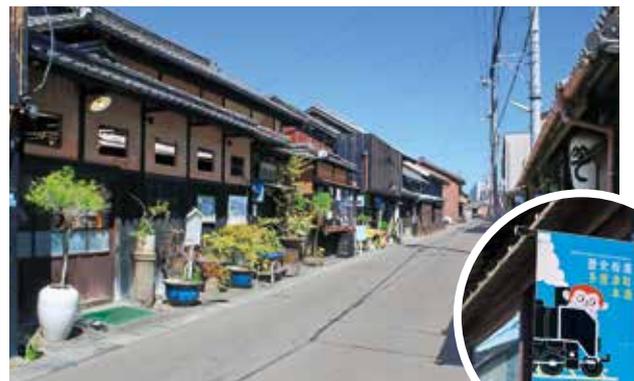
まち歩き



ガイドのたどつまち歩きの会会長 中津
 榮一さん。「五感で味わう旧街道。多度津
 金毘羅街道ウォーキングイベントが12月
 7日に開催されます。みなさんご参加くだ
 さい!」とメッセージをいただきました。

四国鉄道発祥の地の石碑が立つサクラートたどつ
 (多度津町民会館)が今回の出発点。かつて、ここ
 は木造駅舎があり、2階には讃岐鉄道の本社があり
 ました。当時の機械は傷みやすく、すぐ横に修繕
 工場を設置。これが、現在のJR四国の鉄道車両
 工場につながります。西を見上げれば、戦後すぐに
 この地で起こった少林寺拳法のシンボル「大雁塔」や

良き時代を偲ばせる多度津本通り 港町の絶景を見下ろす桃陵公園 多度津町



江戸時代は、金毘羅詣での人々が行き交った本通り。
 立派な商家が並び、土産店、飲食店、旅籠などにぎわっていました。



ガイドさんと一緒に多度津の
 町を案内してくれた、左から、
 多度津町産業課商工観光
 係長の吉田清司さんと、多度津
 町産業課主事の北野裕也
 さん。

本日のまち歩きの最終目的地である桃陵公園の緑が
 望めます。道を挟んで向かい側にあるのは須賀金刀
 比羅神社。金刀比羅宮例大祭の最初の神事が行わ
 れる大切な場所です。
 東浜の交差点から本通りへ。多度津の町には江戸
 から明治にかけて、海運で財を成し、七福神と呼ば
 れた豪商たちが住んでいました。武士もうらやまほ
 の繁栄ぶり、例えば塩田邸の格子窓の柱には商家の
 繁栄に反感を持った武士が切りつけたという刀傷が
 残されています。明治の四国、香川の近代化(電力会社、
 郵便局、測候所など)もこの富豪たちのスピリット
 が大いに貢献しています。その時代、初の鉄道を走ら
 せたものの非常に苦慮した経験から、お金を集める
 ための香川県初期の私立銀行を設立しました。その
 建物が本通りに残されています。





おのみち屋内にある「龍のキャンパス」では、ヒダカナオトさんの魅力的な作品やグッズを販売しています。



2025(令和7)年4月には、香川銘茶専門カフェ「POKER FACE CAFE」がオープン。



銭湯当時の雰囲気をそのまま残した藝術喫茶「清水温泉」では、風呂桶に入ったスイーツなどが味わえます。

白鬚神社では、10月第3土日に例大祭が行われ、色鮮やかな油凾の獅子が石段をのぼるそうです。



京の町家のように奥に細長い「おのみち屋」には、図書室のようなカフェをはじめ、たぬきの売店、すずめの酒場などがあり、昼も夜も楽しめます。



清水温泉やおのみち屋を経営する合同会社ぶくぞう代表社員の日高明道さん。

続いて、清水温泉横の路地を抜け、白鬚神社の石段を上がります。室町時代には、ここに、西讃を治めていた守護代、香川氏の屋形(居館)があったそうです。桃陵公園に向かう道を進むと見えてくるのは、移設された多度津金毘羅街道「一の鳥居」。雲州松江藩が寄贈し、有力力士の雷電(らいでん)為右衛門(えもん)の名前が刻まれています。坂道を上ると猿舎があります。日本で一番古い動物園は上野動物園ですが、幾度も建て替えをしているので、ここが日本最古の猿舎と推測されるそうです。公園には、ずっと港を見つめる「一太郎

現在の本通りには無料のお休み処「よつていつてやー」、かつて「茶の七」と呼ばれた薬店でもあった神原薬局、多度津七福神の一人合田家の豪邸など、往時の雰囲気を伝える建物があちこちに残されています。

特に、昭和50年代までまちの銭湯として愛されていた「日の出湯」は、藝術喫茶「清水温泉」にリノベーションされ人気のスポットとなっています。さらにその向かいには、「元醤油店」「尾道屋」の建屋を引き継いだ「おのみち屋」があり、ギャラリー、売店や酒場、グッズショップなどがオープンしました。一帯のアートワークを担当したのは、画家のヒダカナオトさん。香川県内では「さぬきこども国NEWS」の表紙イラストでおなじみです。おのみち屋や清水温泉を経営する日高明道さんは、奈良県から多度津に通いながら、古民家を再生し、『借りてヨシ、貸してヨシ、地域ヨシ』をテーマに本通りに新たな風(息)を吹き込んでいます。そして、地元の人たちが目指しているのが、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区の認定。本通り繁栄の歴史を令和時代に生かす形で大切に残していきたいと奮闘しています。

やあい」の像。戦争に行く息子を見送るために突堤で名前を呼び続け手を振る母の姿が話題となり、母子愛を表した像です。公園からは、多度津の町並みや多度津港、瀬戸内海が望めます。多度津港は天保年間の築港事業により瀬戸内海有数の良港となり、北前船や金毘羅船が次々と入港し大変な繁栄ぶりでした。現在の多度津港からは、瀬戸内国際芸術祭2025の秋会期の舞台ともなる高見島や観光サイトやインスタグラムで有名な佐柳島への船が出ています。この秋は、歴史とアートを訪ねて、多度津の町並みや島々を巡る旅がおすすめです。



多度津港より西に進んだ見立の山から望む高見島。オリーブと瀬戸内海の島々の緑、空と海の青が美しい瀬戸内の絶景が楽しめます。



「一太郎やあい」の像。



桃陵公園に建つ、時計「カリヨン」。季節ごとに違うメロディを奏でます。

香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

東かがわ市
生涯学習課
武田 大地さん



■目指す人物像は？

出川哲朗さんです。ガッツと優しさがあり、老若男女から愛される人になりたいです。

■東かがわ市をこうしたい！

子どもが楽しめるまちにしたいです。生涯学習課の一員として、イベント開催に携わり、多くの思い出を届けたいです。

三豊総合病院
企業団
澁谷 芽生さん



■あなたのチャームポイントは？

身長が高いところです。そのため、初対面の方にすぐに覚えてもらうことができます。

■企業団の仕事内容は？

医療・保険・福祉の包括医療や急性期医療の提供等、さまざまな職種の職員が多岐にわたる業務を行っております。

琴平町
観光商工課
丸尾 亮太さん



■今、熱中していることは？

筋トレです。平日は早朝に起きてジムでトレーニングをしてから職場に來ています。

■琴平町のいいところは？

琴平町はコンパクトで住みやすい町です。交通アクセスは良好で、町民同士の繋がりが強いのも魅力です。

まんのう町
学校教育課
藤田 大輝さん



■今、熱中していることは？

温泉とサウナです。1週間に1回ほどのペースで行くときもあるくらい好きです。

■まんのう町をこうしたい！

住民の方々が笑顔あふれ、その姿を見てまんのう町に住みたい！と思う方が増える、そんな素敵なまちにしたいです。

観音寺市
税務課
高橋 優さん



■目指す人物像は？

「この人に聞けば解決する」と思っていただけ、皆さまに頼られるような人になりたいです。

■観音寺市をこうしたい！

移住者の方にも、既住者の方にもより住みやすく時代に合った制度を整え、自然と活気あふれる観音寺市にしたいです。

普通寺市
市民課
濱口 真帆さん



■あなたのチャームポイントは？

学生時代に培った体力です。時には水分補給をしながら、目標に向かって走っていきます。

■普通寺市のいいところは？

市民の方々が温かく、また、総本山普通寺、旧普通寺偕行社や赤レンガ倉庫など、歴史と文化がたくさんあるところです。

三木町
総務課
濱崎 未来さん



■あなたのチャームポイントは？

誰とでも気軽に話せる親しみやすさです。会話を通じて町の魅力を発見し、発信したいです。

■三木町のいいところは？

自然豊かで暮らしやすいところです。利便性が良く町内で生活が完結し、白山や太古の森のような心安らぐ場所も満載です。

坂出市
危機管理課
米谷 伽奈子さん



■今、熱中していることは？

節約です。安い食材に出会えた時は嬉しくて、ついついたくさん買ってしまう。

■坂出市をこうしたい！

市民の皆さまの「コトよさ」がかなう坂出市にしたいです。さらに幅広い年代の方々が愛される、住みよいまちにします。



町内の子どもたちを対象に夏休みの宿題(絵と習字)を助け合っで行う「夏休み教室」。



年に一度宇多津北小学校で行う「地域ふれあいフェア」の一場面。この日は、「腹話術」を楽しみました。



宇多津町

愛に包まれるようにやさしくサポート

ボランティア「モコモコ」

(ボランティア「モコモコ」会長 萱原 忠子さん)



メンバーがデザイン・制作を行なったこだわりのユニフォーム。



「楽しく続けてほしいので、できるときにできることができればがモットー」と笑顔で語ってくれた萱原忠子会長。

「モコモコ」という愛らしい名前のボランティア団体が宇多津町にあります。そのスタートは2004(平成16)年、県外から来たお母さんや働くママが子育てしやすい環境づくりのサポートをしたいと「サポートママはぐはぐ」という名前で活動を始めた。それから21年、現在も子育てや育児を応援し、子どもたちにさまざまな体験の場を提供しています。団体名は、ふんわりとしたぬくもりで人を包み込むような存在になりたいという思いから、羊の毛が人々を温めることにちなんで、「ボランティア『モコモコ』と改名しました。この名前には若い人たちにボランティアの輪を広げたいという思いも込められています。運営メンバーは、50代から70代を中心に約18名。中学生や高校生、大学生のメンバーもいます。

活動内容は、月に一度の読み聞かせや工作教室、仕事や子育てなどのストレス解消にもなる陶芸教室。絵画や習字の宿題をサポートする夏休み教室はメンバーの子どもも参加でき、自分の子どもの面倒は見ないルールで、メンバーも育児の負担を軽減しながら活動しています。また、腹話術の講演会など多世代交流ワークショップも年に数回開催しています。そのような活動の中で、お母さんたちがリフレッシュできた笑顔になったり、子どもたちが発想を広げて楽しんだりしている姿を見て、やりがいを感じているそうです。ある時は、メンバーの子どもから「人に喜んでもらえるって、うれしいことなんだね」という言葉が出て、一同が感激したこともありました。メンバーの子どもをはじめ若い人々が、当たり前のようにボランティア活動を手伝う姿を見て元気をもらっている私たちです。



ワークショップ「おひなさまを作ろう」。

しかし、メンバーの年齢層は年々上昇しています。活動を続けていくためには、ここで若返りを図りたいと、若い人たちの意見を取り入れ、お母さん自身がリフレッシュできるプログラムの考案に現在奮闘中です。また、子どもたちの集中力が年々低下していることを懸念し、ネット動画に負けない読書体験を味わってもらいたいと知恵を出し合っています。子どもたちが喜びそうなことを考え続け、活動を行ってきたと語ってくれた代表の萱原忠子さん。自分が育った町を「好き」といえる環境を作っていくことで、地域の活性化にもつながればと願っています。

支援を「される側」から「する側」へ。ボランティアをした子どもを積極的に受け入れ、次世代の育成にも力を入れる「モコモコ」。やりがいや喜びの連鎖を紡いでいます。

DATA

ボランティア「モコモコ」
☎090-7573-8825
mocomoco2012@ezweb.ne.jp
Instagramはこちら▶



SMOCOMOCO2004

ハロウィン ジャンボ

5億円

1等・前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

当せんの
チャンス
広がる

ハロウィン ジャンボミニ

5千万円

1等・前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円、前後賞各1,000万円



パソコンや
スマホで
ネット購入!



宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月19日(金) 同時発売

発売期間 / 9月19日(金)~10月19日(日)
抽せん日 / 10月28日(火) 各1枚300円

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上のため
に使われます。

2025年新市町村振興宝くじ
公益財団法人 香川県市町村振興協会

